

令和 6 年度

事業者番号 0250 事業所番号 025002

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C
C	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	マレリ株式会社 吉見工場		
事業所所在地	市区町村	比企郡吉見町	
	字・地番	大字久米田628番地	
産業分類名(中分類)	31 輸送用機械器具製造業		
分類番号(中分類)	31		
事業活動の概要	事業内容	・事業内容:自動車用内外装樹脂部品製造 ・主な製品:インスト&インストパーツ、リッドクラスタ、ラジコアフロントエンド ・従業員数:916名(2024年4月)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対して削減期間の平均削減率を20%以上とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	55,176	t-CO ₂		
	削減目標量(計画期間合計)	13,794	t-CO ₂	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	4,257	3,873	3,772	3,891	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂	8,396	7,618	7,427	7,646	
前年度比 (%)	—	-9.3	-2.5	2.9	
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
	メタン	0	0	0	0
	一酸化二窒素	0	0	0	0
	ハイドロフルオロカーボン	0	0	0	0
	パーフルオロカーボン	0	0	0	0
	六ふっ化いおう	0	0	0	0
	三ふっ化窒素	0	0	0	0
温室効果ガスの合計	8,396	7,618	7,427	7,646	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂ 排出量原単位	1.4684	1.1735	0.8100	0.7107	
前年度比 (%)	—	-20.1	-31.0	-12.3	
活動規模の指標	単位				
出荷額	百万円/年	5,717.83	6,491.73	9,168.94	10,758.00

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	NAS電池設備廃止(契約満了に伴う対応)に伴い補機電力使用量削減となる。 (2020年10月より設備停止)					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	1-A棟に環境改善として空調機を導入(電力量増加)(2021年7月より稼働) エネルギー使用量は、生産数量減少により低減となっている。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	2-B棟に環境改善として空調機を導入(電力増加)(2022年6月より稼働) エネルギー使用量は、生産数量減少により低減となっている。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	さいたま本社を中心とした人員異動に伴い約400名の人員増 取壊し建屋：ポンプ室(最終ポンプ室)・倉庫(旧棚車修理棟)・車庫 新設建屋：食堂棟増築・テント2棟新設					
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	13,794	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	13,794	13,794	13,794	13,794	13,794	68,970	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							55,176
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							13,794
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	8,396	7,618	7,427	7,646		31,087	
	削減率 (F = (A - E) / A)	39.13%	44.77%	46.16%	44.57%		—	
	排出削減量 (G = A - E)	5,398	6,176	6,367	6,148		24,089	
各年度の排出量の検証		実施済	実施済	実施済	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	変圧器更新による省エネ		R1以前	89.0
2	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	照明設備のLED機器への更新 (水銀灯、照明器具等)		R1以前	131.0
3	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	2-B棟オイルPS用冷却水設備更新 (冷却水ポンプ定格容量低減)		R1以前	16.0
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	1-B棟照明器具LEDへ交換		R1以前	15.0
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	工場事務所照明器具LEDへ交換		R1以前	3.0
6	360700	ポンプ、ファン、ブローワー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	2-A棟冷却水ポンプ定格容量低減		R1以前	8.0
7	490200	その他	49_その他の削減対策	フォークリフト燃料をLPGからEVへ変更		R1以前	49.0
8	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	650t成形機を油圧式を電動式へ更新		R1以前	58.0
9	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	NAS電池設備廃止に伴う補機電力削減	R2	R2	594.0
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

C02排出量は、基準年 (H17～H19) より生産数量減少及び老朽化設備更新時省エネルギーを考慮した機器の導入によりエネルギー使用量低減とC02排出量低減を図ってまいりました。

省エネルギー対策

- 1) 照明器具のLED器具への更新
- 2) 変圧器更新や低負荷変圧器統合による省エネ
- 3) オイルP/S用冷却水設備更新時ポンプ容量の適正化による省エネ
- 4) 照明器具のLED器具への交換 (1-B棟、工場事務所)
- 5) 2-A棟冷却水ポンプ定格容量低減による省エネ
- 6) フォークリフト燃料をLPGからEVへ変更
- 7) 成形機を油圧式から電動式へ更新 (650 t 成形機 1台)
- 8) NAS電池設備廃却による補機電力使用量削減